５.おらがた　あきてん

おらがたかしだし

貸出　田中

先日、直木賞と芥川賞の違いについて、ご利用者から質問がありました。

ご存知の方も多いと思われますが、違いを簡単にお伝えします。

芥川賞

各新聞・雑誌（同人雑誌を含む）に発表された純文学短編作品中最も優秀なるものに呈する賞。

（純文学とは、大衆小説、あるいは小説一般に対して、商業性よりも「芸術性」・「形式」に重きを置いていると見られる小説を総称する、日本文学における用語）

直木賞

各新聞・雑誌（同人雑誌を含む）あるいは単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品中最も優秀なるものに呈する賞。

（大衆小説、大衆文学とは、純文学に対して、芸術性よりも娯楽性・商業性を重んじる小説の総称。「娯楽小説」「娯楽文学」も同義語。）

要は、芥川賞が純文学、直木賞が大衆文学ということなんですね。

そこで、今月は直木賞の受賞作品について書きたいと思います。

直木賞は、１９３５年に直木三十五を記念して創設された文学賞。

正称は直木三十五賞。文藝春秋を主宰していた菊池寛の発意で、芥川賞とともに設けられ、今日に至っています。

授賞は年２回。第１回受賞者は川口松太郎です。

２０１８年度（平成３０年）の下期が第１６０回ですので、さすがに全部をご紹介することはできませんが、過去５年間の受賞作品をご紹介します。

第１４９回（平成２５年、２０１３年度上期）

桜木柴乃「ホテルローヤル」

第１５０回（平成２５年、２０１３年度下期）

朝井まかて「恋歌(れんか)」

姫野カオルコ「昭和の犬」

第１５１回（平成２６年、２０１４年度上期）

黒川博行「破門」

第１５２回（平成２６年、２０１４年度下期）

西 加奈子「サラバ！」

第１５３回（平成２７年、２０１５年度上期）

東山彰良「流(りゅう)」

第１５４回（平成２７年、２０１５年度下期）

青山文平「つまをめとらば」

第１５５回（平成２８年、２０１６年度上期）

荻原浩「海の見える理髪店」

第１５６回（平成２８年、２０１６年度下期）

恩田陸「蜜蜂と遠雷」

第１５７回（平成２９年、２０１７年度上期）

佐藤正午「月の満ち欠け」

第１５８回（平成２９年、２０１７年度下期）

門井慶喜「銀河鉄道の父」

第１５９回（平成３０年、２０１８年度上期）

島本理生「ファーストラヴ」

第１６０回（平成３０年、２０１８年度下期）

真藤順丈「宝島」

上記作品は、全て点字版デイジー版ともにあります。リクエスト、お問い合わせをお待ちしております。

直木賞を調べていたら、「日本一売れた本」というのがわかりました。

皆さん何だと思いますか？

黒柳徹子の「窓ぎわのトットちゃん」、売上部数８００万部とのことです。

皆さんはもう読まれましたか？

先日、「デイジー図書が届いたが、ＣＤのケースの開け口が解らない時がある。」とのご意見がありました。

デイジー図書のＣＤケースは、１５年以上前の発行時から、変化してきています。

現在はソフトケースと呼ばれるもので、こちらは壊れにくいのですが、開け口がわかりずらいのが難点です。そのため、開け口が解るように点字シールなどを貼っています。

ところが、点字シールが貼られていないものもあることが判明いたしました。

皆様にご不便をお掛けし、申し訳ございませんでした。さっそく、全　ケースの点検をしております。

また、「点図だより」のＣＤケースは、ハードケースを使用しておりますが、割れやすい、とのご指摘をいただきました。このことについても、今後、検討いたします。

皆様のご意見は大変ありがたく思っております。

「お世話になっているから、意見は言いづらい。」とおっしゃる方がおられましたが、ご意見、ご指摘がなければ気が付かないことがたくさんあります。どうか、遠慮せずに、ご連絡ください。おまちしております。